

市長と

まちかど

タウンミーティング

テーマ:

子育て

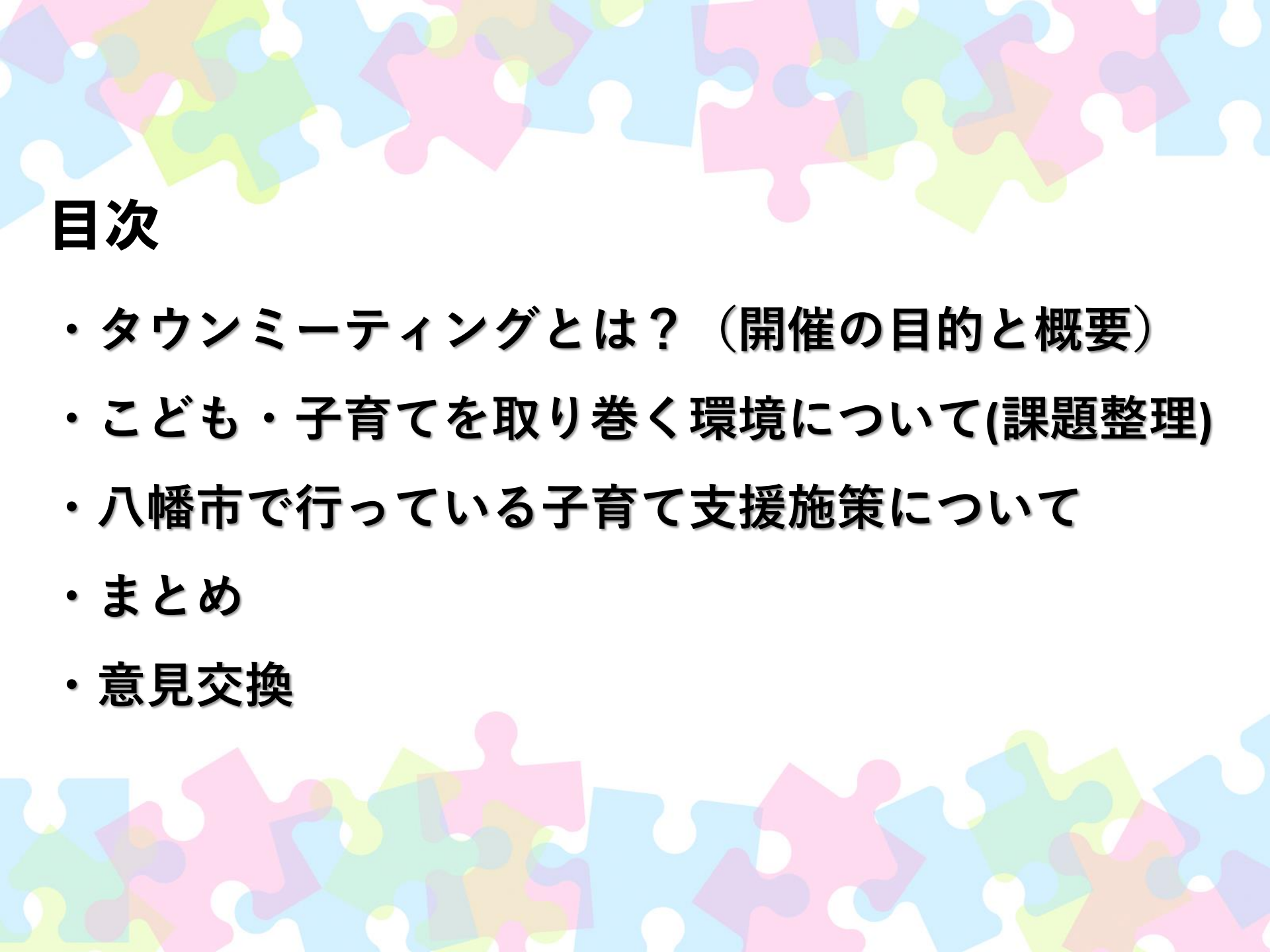


※テーマ「子育て」につきまして、共通資料としています。
開催時期によって、数値が若干変更しています。



八幡市

YAWATA CITY



目次

- ・ タウンミーティングとは？（開催の目的と概要）
- ・ こども・子育てを取り巻く環境について(課題整理)
- ・ 八幡市で行っている子育て支援施策について
- ・ まとめ
- ・ 意見交換

タウンミーティングとは？（開催の目的と概要）

皆さまが日ごろ感じている、まちの利便性やさまざまな情報についてお伺いし、できる限り市政へ反映させたい

「まち」に関する様々な課題に対しての思いを共有し、市と市民の皆さんが同じ方向を向いて進んでいけるようにしたい

タウンミーティングとは？（開催の目的と概要）

今月で合計**9**回の開催

毎回地域ごとにテーマを設定

長町:

「まちづくり(+防災)」

橋本:

「子育て支援」

八幡(山柴):

「まちづくり(+観光)」

有都:

「まちづくり(+産業)」

男山さくら:

「まちづくり(+健康)」

八幡(志水):

「子育て支援」

男山くすのき:

「子育て支援」

南山:

「子育て支援」

美濃山、欽明台:

「子育て支援」

これからも継続してまいります

こども・子育てを取り巻く環境について(課題整理)

① 長期にわたり、止まらない人口減少

人口は平成7年の約76,000人がピーク→現在約68,600人
八幡市内で生まれた子の数：327人（令和5年度）

② 少子化に伴う、こどもの人口減少

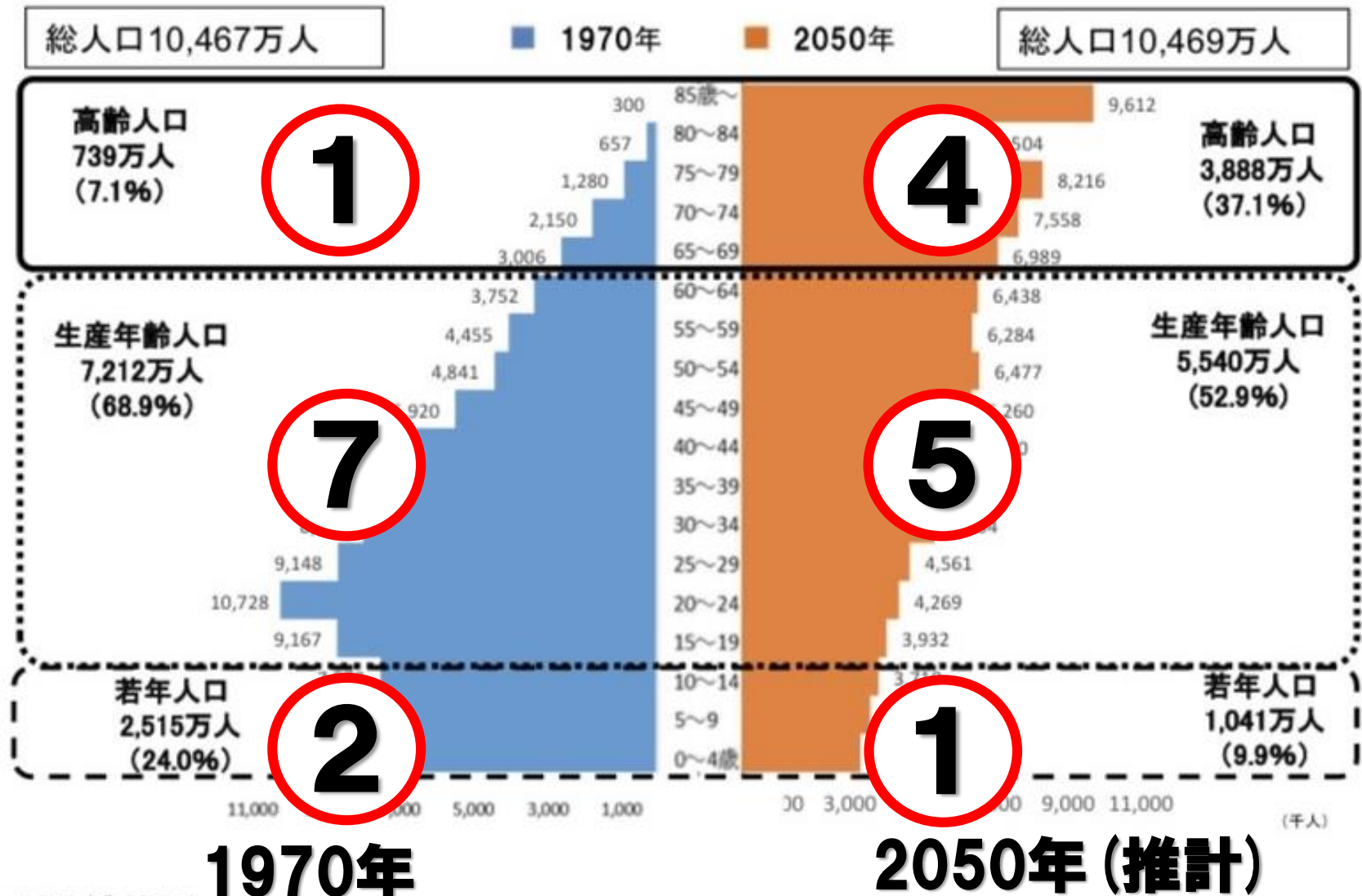
0～14歳の人口 8,417人（令和2年3月末）



7,327人（令和6年3月末）

4年間で約1,000人減少。総人口に占める割合は 11.9%から10.6%に

こども・子育てを取り巻く環境について(課題整理)



こども・子育てを取り巻く環境について(課題整理)

急速に変化する人口構成、家族の形、地域の在り方



「これまで通り」の積み重ねで支援を考えては

対応できなくなるのは必至

これからの社会保障や地域福祉のあるべき姿について

積極的な議論が行われなければならない

こども・子育てを取り巻く環境について(課題整理)

- ・これまでの「子育て支援施策」

十分に「子育て当事者」の意見が反映されていたか？
決定権を持っていたか？

※まちづくりの「決定権」を持つ首長（市町村長）の女性比率は3.0%
(令和5年12月末現在)

- ・当然ながら出産しなければ子は生まれないが、
出産にかかる身体的負担を担うのはどうしても女性
身体以外の社会的負担をいかに軽減し、寄り添うか

こども・子育てを取り巻く環境について(課題整理)

若い世代の「出産・子育て」への意思決定の阻害要因
＝負担感をなくす

時間的
負担

経済的
負担

精神的
負担



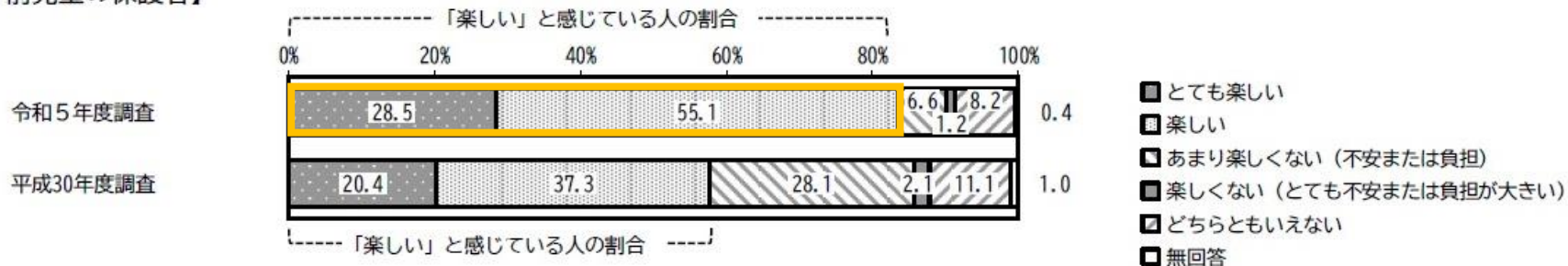
子育て＝楽しい！

ハードルを取り払って、楽しく幸せな子育て環境へ。

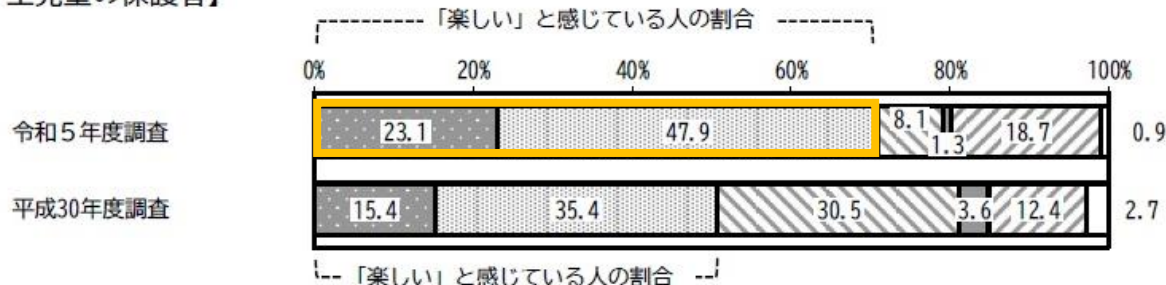
子育てを「楽しい」と感じている人の割合が増加しています。

《Q. 子育ては、楽しいときもあれば、つらいときもありますが、お気持ちに一番近いものはどれですか。》

【就学前児童の保護者】



【小学生児童の保護者】



出典：八幡市 子育て支援に関するアンケート調査結果報告書（令和6年7月）

八幡市で行っている子育て支援施策（例）

- こども医療費無償化（18歳まで）
- 給食費無償化への段階着手（小中学校9学年・25%）
- 市内公立小中学校体育館の空調完備
- お母さんのための健幸スマイルスタジオ(MOMアップパーク)
- プレママ・プレパパセミナー
- 公立幼稚園の預かり時間拡大・2才児プレ保育開始
- 不登校支援（スペシャルサポートルーム全校配置）
- 泣いてもかましまへん！プロジェクト（社会の寛容性）

八幡市で行っている子育て支援施策（今年度予算）

妊娠判定検査への助成

新規

所得の低い妊婦に対し、医療機関での初回妊娠判定検査に要した受診料の一部を助成

母子保健事業の充実

新規・充実

- ・ 1 カ月児健康診査の実施
- ・ 産後ケア事業で所得制限のない利用料助成を導入
- ・ 市内 2 箇所で健幸スマイルスタジオを実施

就学前施設等における子育て支援の充実

新規・充実

- ・ 公立幼稚園での預かり保育の時間拡大
- ・ 公立幼稚園で 2 歳児向けのプレ保育を導入
- ・ 民間保育所・こども園の安全・防犯対策等に必要な設備整備・多機能化の取組などを支援
- ・ 民間保育所・こども園に副食費の一部を助成
- ・ ひとり親世帯のファミリーサポートセンター利用料助成制度を創設 等

多様な学びの場の充実

新規

市内の全中学校に「校内支援センター（スペシャルサポートルーム）」を設置し、専任の非常勤講師等を配置



個々の生徒のニーズに合わせた誰一人取り残さない学びを保障

給食費無償化の推進

新規

市内小中学校の全学年に対し、給食費の一部を助成し、子育て世代の負担を軽減

小学校・中学校環境整備

新規

- ・ 八幡・有都小学校の屋内運動場空調設備等整備
- ・ 男山第二中学校の武道場長寿命化改良
- ・ 男山東中学校のエレベータ整備の設計 等

どんな性質の「支援」が必要とされているか？

	金銭	時間	精神
経済支援	こども医療費無償化 給食費無償化 保育料負担軽減	子どもの「遊び場」 「居場所」づくり	
サービス 充実		こども園・保育園への 送迎の利便性改善 幼稚園の預かり時間 拡大・2才児プレ保育	momアップパーク 産前産後ケア 相談窓口の充実 アプリなど相談の 利便性up
制度改革	男女の給与不均衡の改善 ⇒女性就職支援 子育て支援のナショナル・ミニマム(最 低水準)の保障を国へ求めていく		

まとめ

大切にしたいのは「当事者目線のニーズ把握」

結果的に無駄をなくし、
適切で効果的な支援につなげます

